

令和7年度 東京都内湾水生生物調査 2月成魚調査 速報

●実施状況

令和8年2月6日に成魚調査を実施した。天気は概ね晴れで、気温は7.8～10.7℃であった。調査地点の風向は北東から南東であり、風速は1.1～1.8m/sであった。調査当日は中潮で、満潮は7時25分、干潮は13時39分であった(気象庁のデータ)。当日の水色は概ね暗緑色で透明度は1.9m以上であったことから赤潮ではなかった。種別では、ハタタテヌメリが全地点で、マコガレイが2地点で確認された。魚以外では、エビジャコ属が3地点、シャコが2地点で確認された。

| 項目 / 地点名 | St.35 | | St.25 | | St.22 | | St.10 | |
|--------------|------------|------|-------------|------|-------------|------|-------------|-------|
| 作業時間 | 9:44～10:50 | | 10:53～11:50 | | 12:00～13:15 | | 13:17～14:44 | |
| 水深(m) | 25.6 | | 14.4 | | 14.2 | | 7.5 | |
| 天候 | 晴れ | | 晴れ | | 晴れ | | 晴れ | |
| 気温(℃) | 7.8 | | 9.0 | | 9.5 | | 10.7 | |
| 風向/風速(m/sec) | NE/1.1 | | NE/1.8 | | E/1.6 | | SE/1.4 | |
| 波浪(m) | 0.3 | | 0.2 | | 静穏 | | 静穏 | |
| 透明度(m) | 3.2 | | 1.9 | | 2.5 | | 2.8 | |
| 観測層 | 上層 | 下層 | 上層 | 下層 | 上層 | 下層 | 上層 | 下層 |
| 水温(℃) | 10.2 | 11.4 | 10.1 | 10.4 | 10.7 | 10.3 | 9.4 | 9.9 |
| 塩分(ー) | 32.3 | 33.2 | 31.2 | 32.6 | 31.8 | 32.5 | 31.9 | 32.2 |
| DO(mg/L) | 11.1 | 7.31 | 12.5 | 8.95 | 13.1 | 8.8 | 16.2 | 11.6 |
| DO飽和度(%) | 121.8 | 82.4 | 134.8 | 99.0 | 144.1 | 97.0 | 173.7 | 126.7 |
| pH(ー) | 8.36 | 8.18 | 8.42 | 8.28 | 8.46 | 8.26 | 8.70 | 8.45 |
| 水の臭気 | なし | なし | なし | なし | なし | なし | なし | なし |
| 備考 | — | | — | | — | | — | |

観測層:上層(0m)、下層(海底面上1m)。貧酸素状態とはDO(溶存酸素量)が2mg/L以下の状態。

●主な出現種など(速報なので種名は未確定です)

| 主な出現種など | St.35 | St.25 | St.22 | St.10 |
|-----------------|-------------------------------|-------------------------------------|------------------------|--|
| 魚類 | カタクチイワシ(c) ハタタテヌメリ(+) | マコガレイ(r) ハタタテヌメリ(+) テンジクダイ(r) | マコガレイ(r) ハタタテヌメリ(+) | アカエイ(r) マハゼ(r) ハタタテヌメリ(+) メイトガレイ(r) |
| 魚類以外 (目立った種) | シャコ(r) イカ類(+) エビジャコ属(+) | シャコ(r) エビジャコ属(+) | エビジャコ属(+) | ホンビノスガイ(+) トリガイ(+) |
| 上記以外 | クシノハクモヒトデが 多数採捕された。 | クシノハクモヒトデが 多数採捕された。 | 二枚貝類の死殻が複数種入網した。 | 二枚貝類の死殻が複数種入網した。 |

*表中の()内の記号は大まかな個体数を表す。

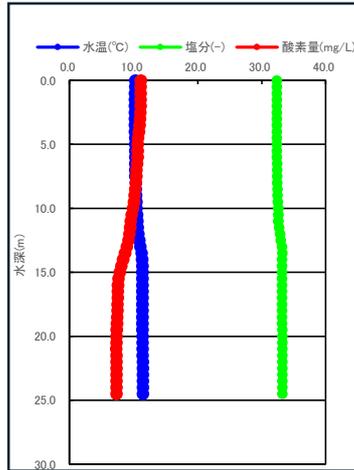
G:1000個体以上、m:100～1000個体未満、c:20～100個体未満、+:5～20個体未満、r:5個体未満

調査地点: St.35

調査地点位置



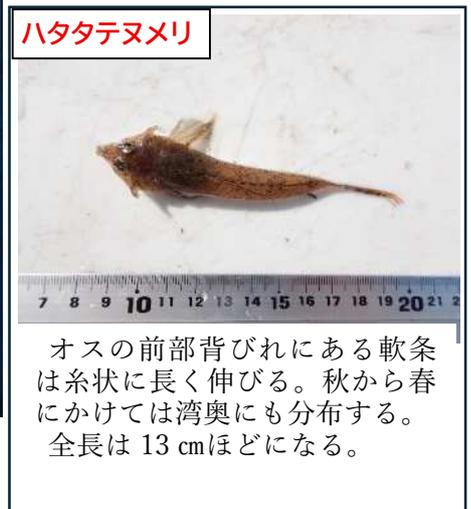
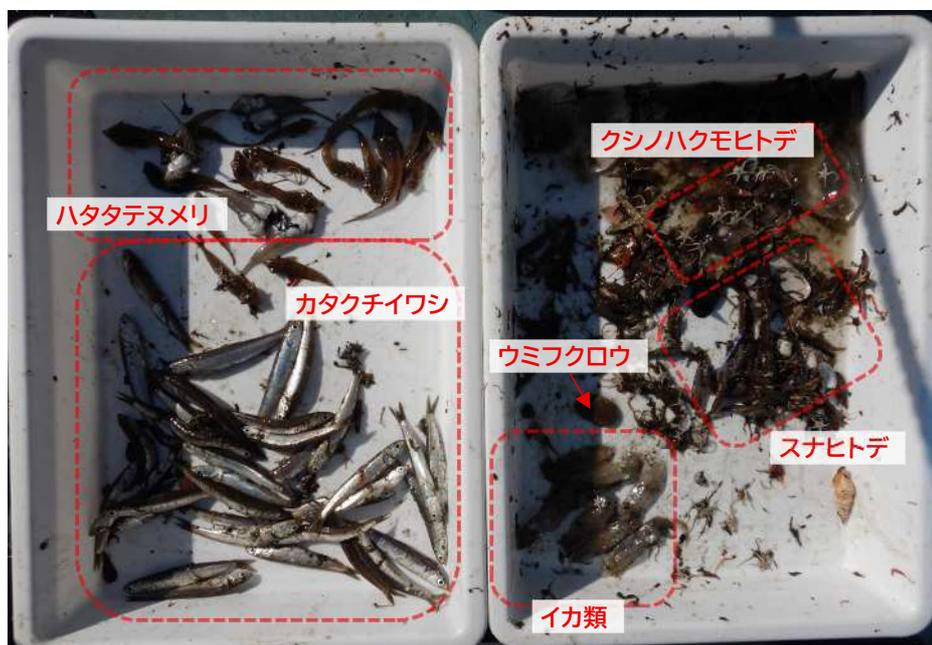
水質状況



地点状況



採取試料

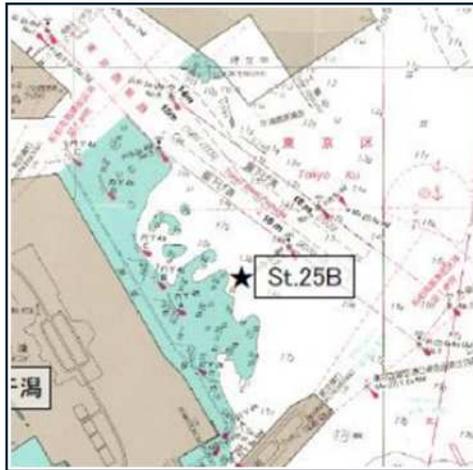


主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛り: 1mm

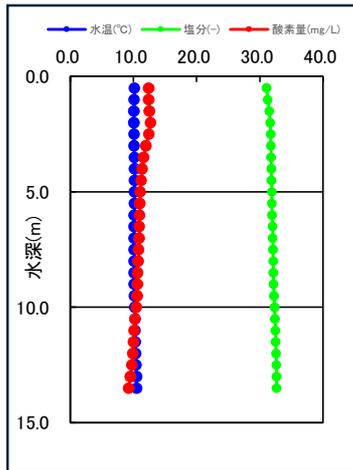


調査地点: St.25

調査地点位置



水質状況



地点状況



西側には東京国際空港が見える。

採取試料



全長 13 cm ほど。オスの前部背びれにある軟条は糸状に長く伸びる。秋から春にかけては湾奥にも分布する。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛り: 1mm



東京湾全域に出現し、特に湾奥に多い。砂泥底に生息して甲殻類等を食べる。繁殖期は7月から10月。親魚が卵を口の中にくわえて、ふ化するまで保護する習性を持つ。



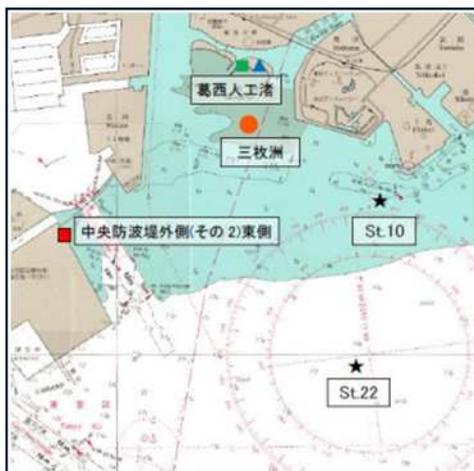
東京湾では普通に見られるカレイの一種。成魚は全長 45 cm 程まで成長する。水深 100m より浅い砂泥地に生息し、ゴカイなどを食べる。



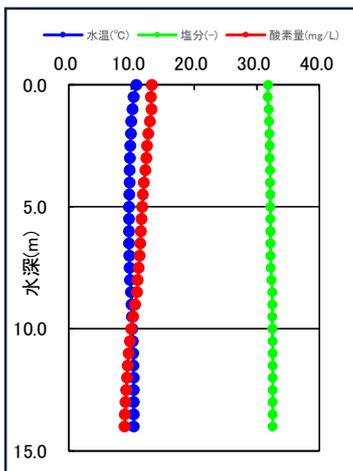
内湾の砂泥底に生息し、普段は砂にごく浅く潜って隠れている小型甲殻類。環境の変化に敏感に反応して体色を変化させる。稚魚等を捕食することもある。

調査地点: St.22

調査地点位置



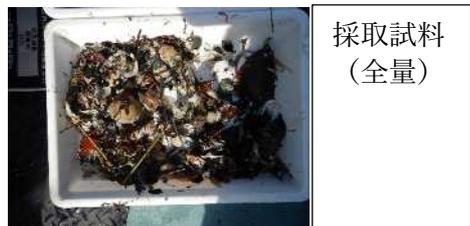
水質状況



地点状況



採取試料

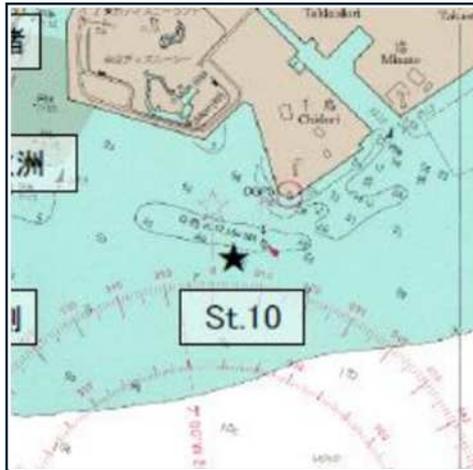


主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛り: 1mm

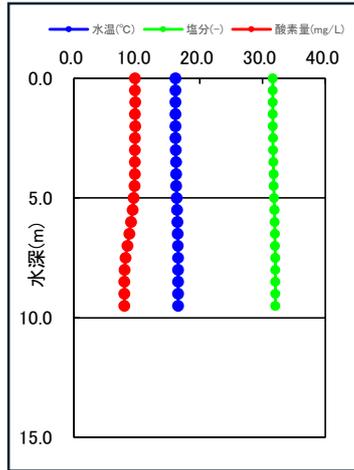


調査地点: St.10

調査地点位置



水質状況



地点状況



北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料



採取試料 (全量)
貝殻が多い



東京湾で最も普通にみられるエイ。目の後ろにある噴水孔で呼吸をする。尾部のノコギリ状の棘 (毒針) は刺されると危険。

主な出現種 ※写真のスケール 1目盛り:1mm



夏季は河口域を中心に生息し、秋にかけて干潟で成長する。徐々に深場へと移動する。産卵期の冬から初夏に雄が河口付近の砂泥底に巣穴を掘り、その中に雌が産卵する。



体長 20cm ほどになる。水深 20~120m の砂泥底に生息し、多毛類等を食べる。名前の由来は、眼の間に棘があり、触ると痛いため (目痛蝶) とされる (諸説あり)。



全長 13 cm ほど。オスの前部背びれにある軟条は糸状に長く伸びる。秋から春にかけては湾奥にも分布する。